

地上における信頼の巡礼 ——ストラスブール、アルザスおよびオルテナウにて

ブラザー・アロイス (テゼ共同^{コミュニティー}体院長)



2013年、ストラスブール大会に先立って、わたしたちは、予定通り、アジアの若者に特に耳を傾けようと努めました。これによって、2015年の「新しい連帯」への旅をさらに進めることができました。

もう何年にもわたって、アジアの青年たちがテゼを訪問するようになり、また「信頼の巡礼」によって、アジアの国々で開かれる集いに多くの青年たちが集まっています。テゼ共同体には、バングラデシュや韓国で暮らすブラザーや定期的にアジアを訪問しているブラザーたちがいます。

10月と11月、わたしと数名のブラザーは、ミャンマー、中国、北朝鮮と韓国、そしてインドを訪問しました。こうした訪問によって、これらの地域について現状をより深く理解したいと望んでいることを示し、平和と正義のために——それも、キリストのゆえに——働く方々と連帯していることを示したかったのです。わたしたちは、そこで以下のような問いを受け取って来ました。これらの問いは、すべての人にとって、それぞれ置かれた状況の中で、自らを省みる助けになるでしょう。

fr. Alois

アジアの青年に耳を傾けて

ミャンマーでは、民主主義へ向かう動きについて大きな期待が生まれています。キリスト者の中には、未来に備えて「民主主義のための教育」に取り組む人たちがいます。ある青年が「わたしたちに必要なのは開発と教育」と語ると、「何もまして必要なことは、思いやり」と答える人がいました。民族の多様性は、この美しい国の財産です。一方、互いに受け入れられる解決策を見出そうと模索しつつも、乗り越えるのが困難と思われる対立にあるグループやコミュニティーがあります。天然資源は豊富ですが、現地の人々はその恩恵を受けていません。

すべての人への問い：自分の国で、民主主義を支え強めるために、わたしには何ができるでしょうか。

中国では、北京で開かれた祈りの集いに、150名の若者が集まりました。その一人は、次のことを知ってほしいと語りました。「この国の経済発展は現実の外見に過ぎません。本当は、人々の内面にはむなしさ、向かうべき方向性と意味の喪失があるのです。」

すべての人への問い：

物質的な豊かさをこえて、わたしたちの人生に意味と方向性を与えるものは何でしょうか。

中国から、ブラザーの一人とわたしは北朝鮮へ渡りました。世界のこの地域では、危ういまでに冷戦が続いています。南北朝鮮の分断は、両側の無数の人々に深い傷跡を残しています。

わたしたちの北朝鮮との結びつきは、ひどい飢饉^{ききん}によって多くの人が亡くなった1997年に遡^{さかのぼ}ります。当時ブラザー・ロジェは、率先して数千トンの食糧を送りました。その後、「オペレーション・ホープ」の活動を通じて病院を支援するようになりました。そして北朝鮮の医者のための研修プログラムをヨーロッパで企画しました。ブラザーの一人は何度か北朝鮮を訪問し、貴重な人脈^{びん脈}が生まれました。

今日、現地での欠乏は深刻です。国は極めて孤立しています。平壤で迎えてくれたのは、北朝鮮の赤十字の代表者たちでした。そこでわたしたちはこう伝えました。「テゼは、NGOではなく修道会です。物質的な援助活動にままして、わたしたちには一人ひとりとの出会いが大切なのです。」そして、平日で閉まっているとしても、ぜひ教会を訪問したいと強くお願いしました。平壤で唯一のカトリック教会では、信徒の責任者（司祭はおられません）がわたしたちを迎えてくださり、二つあるプロテスタント教会の一つでは、牧師の方々とお会いし、ロシア正教会では、二名の司祭のうちの一人が迎えてくれました。これらの教会で、わたしたちは沈黙のうちに祈りました。この沈黙にはとても力強い重みがありました。わたしたちがこの国を訪問したのは、何よりもこの沈黙を共有するためではなかったのかと思います。

すべての人への問い：わたしが訪問することによって、孤立の辛さを少しは和らげられることがあります。わたしたちのごく身近なところあるいは遠く離れた場所で起きている孤立状態とは何でしょうか。

韓国の釜山では、世界教会協議会（WCC）の総会に参加しました。多くの異なる教派のキリスト者が美しく深遠な分かち合いの時間を共にしつつも、わたしは心からわき上がる疑問を拭い去ることができませんでした。――なぜわたしたちは分裂したままでいるのでしょうか。

すべての人への問い：自分の国で、歴史がある古い教会のキリスト者同士だけでなく、福音派・ペンテコステ派のような新しい教会に属するキリスト者とももっと繋がりを創り出してゆくことはできないでしょうか。

この巡礼の終盤で、わたしはインドを訪ねました。最初に訪問したのはムンバイ近くの島にあるバサイという町で、そこに5,500人の若者が集まりました。集いの会場に辿り着くには、最後に歩いて通らなければならない道がありました。その道を進み始めて驚いたのは、ヒンズー教徒の一家のお宅があり、家の前に「ようこそ」と書かれていたことです。キリスト教徒の若者がわたしにこう説明してくれました。「わたしたちは、食べ物を分かち合い、祭りのための作業に協力することで、互いの宗教のお祭りに敬意を示し合っています。」島の住民の多くは漁師です。彼らは一週間か10日間ほど小舟で漁に出ますが、その度に無事に戻って来られるだろうか……とと思っているのです。去年は、一隻の小舟が戻ってきませんでした。出発前には、キリスト教徒は、そしてヒンズー教徒すらも、祝福を受けに教会へ行くのです。

すべての人への問い：他の宗教を信じる人々に対して、わたしはどのようにして敬意を表し、宗教が暴力の種ではなく平和のパン種であることを示すことができるでしょうか。

ムンバイでは、青年たちが準備した屋外での祈りの集いに3,000人が集まりました。そこでオズワルド・グラシアス大司教は、急速な発展にもかかわらず、ムンバイの住民1,900万人の半数は極度な貧困のうちに生活していると仰いました。最大の貧困地区のダラビでは、司祭が温かく歓迎してくださり、青年たちの案内でいくつもの家族を訪問しました。その日暮しの生活であっても、人々は生き抜くために働く道を何とか見出しています。キリスト者は、一緒に祈り、そして助け合うために小さなコミュニティーを形成しています。何という創造性でしょう！青年たちは集まって、自発的な祈りの場を持っていました。この都市の将来は、どんな姿になるでしょうか。都市は加速的に増大し、時が来れば交通渋滞は生活を麻痺させ、もはや都市計画は多くの課題に対応できなくなるのです。

すべての人への問い：自分の街や地域で、皆が共により良く生活できることを求めて尽力している人々、あるいはそのような取組みを知っているでしょうか。わたしは、どのようにそれを支援できるでしょうか。

互いに大きく異なるこれらのアジア諸国で、多くの場合キリスト者は少数派です。しかし、彼らは「地の塩」になることを願っています。ときにはとても目立たない方法で、暮らしている社会に希望を作り出しています。彼らとの心からの一致を感じつつ、わたしたちは、キリストを愛するすべての人々で交わりを祝い深め合いたいのです。

++++

2014年、わたしたちは特にアメリカ大陸の青年たちに耳を傾けたいと思います。4月と5月には、テキサス（オースティン、ダラス、ヒューストン）で、そして5月上旬にはメキシコで大会が開催されます。ハイチや他のカリブ諸島への巡礼に続いて、10月にはドミニカ共和国で大会が開かれます。

++++

わたしたちは2015年の巡礼に向けて、一緒に旅を進めていますが、テゼからの手紙「新しい連帯に向かって」は、引き続きわたしたちの歩みを段階的に導く基本的指針となります。（2015年のプログラムは下記参照）テゼからの手紙にある通り、わたしたちが取り組む来年のテーマは「キリストを愛するすべての人々の目に見える交わりを求めて」です。その模索を共にするために、4つの提言があります。

ストラスブール大会に寄せられたメッセージ

教会の指導者たちや、国際機関の代表者たちが、ヨーロッパ大会の参加者に向けてメッセージを送ってくださいました。英語のメッセージは以下から読むことができます。<http://www.taize.fr/en>

テゼからの提言 2014 年

キリストを愛するすべての人々の目に見える^{コミュニオン}交わりを求めて

キリストは、誰一人退けることなく、すべての人に友情を差し伸べられました。そのキリストに倣って、キリストを愛する地上のすべての人は、一つの大きな友情の^{コミュニオン}コミュニティーを形成しています。これが交わりと呼ばれるものです。だからこそキリスト者には、人類の傷を癒やすために貢献できることがあるのです。だからこそキリスト者は、自分たちの主張を押し付けようとすることなく、どんな人々も、そして誰一人として除外されることのないグローバルな連帯を進めることができるのです。

どのようにして、一人ひとりがこの^{コミュニオン}交わりに加わることができるでしょうか。

提言 1 地域の祈りの群れに加わる

互いに愛し合いなさい。その愛によってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハネ 13:34-35)

ときに、たとえば国際大会のような機会には、この友情のコミュニティーが目に見えるものとなります。しかし、こうしたイベントはたまにしか開催されません。一方、どんな場所でも、この大きなコミュニティーを部分的に見出すことができます——かりにそれがとても貧しく思える場合であっても——。自分たちだけで信仰を生きることは不可能です。信仰が生まれるのは、^{コミュニオン}交わりを体験するとき、キリストこそが無条件の一致の源であることを発見したときなのです。

もし地域のコミュニティー（地域の教会・小教区とも呼ばれます）、地域のグループ、学校や病院など地域での司牧がますます友情の場所となってゆけたら！温かさと歓迎の場所、そこで互いが支え合い、弱い人々や外国人や意見の異なる人々に目が注がれる場所に……。

- **すべての人への提案：**
日曜日の礼拝や典礼、または他の活動などに参加してみてもはどうでしょうか。ときには自分が選んだのではない人々とであっても、共に参加する——。そのことによって、^{コミュニオン}交わりを体験できるのではないのでしょうか。
- **地域の司牧のリーダーたちへの提案：**
青年に耳を傾け、彼らが地域のコミュニティーにもたらすことのできるものを見定め、歓迎することができます。またこのことを、より年配の人々に気づいてもらうようにしてはどうでしょうか。

提言 2 自分を制限する境界を越えて 友情を差し出す

最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイ 25:40)

イエスは出会ったすべての人、中でも貧しい人々、子ども、重要と思われていなかった人々に目を注ぎました。イエスに付き従うとき、わたしたちは境界を越えて、困窮する人々に^{つな}繋がることのできるのです。所属が異なるキリスト者と共に、また同じ信仰を共有しない人たちと一緒に、連帯の働きに取り組むことができるのです。

物質的な貧困であれ霊的な貧しさであれ、それに連帯するという事は、双方向で分かち合うことを意味します。援助の手を差し伸べるとき、しばしばわたしたちの方がいただく者になっているのです。

- **すべての人への提案：** 近隣の状況や人々から、この一年友情を差し出す対象を選んではどうでしょうか。見捨てられた人、貧しい人、病人、障がいのために苦しんでいる人、育児放棄された子ども、移民、失業者に連帯が示されるように。
- **地域の司牧リーダーたちへの提案：** 連帯が必要で、かつそれが可能な場所を青年が見つけれられるように助けることができないでしょうか。

提言 3 他の人と定期的に分かち合い祈る

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。(マタイ18:20)

つらい試練、見捨てられたこと、孤独、世界の不正義への鋭い気づきなどによって、神への信仰を抱くことがほとんど不可能に思われる青年たちもいます。信じるということは、つねに冒険です——信頼するという冒険。あなたは誰と旅をし、誰と自分の信仰について共に考えることができるでしょうか。

- すべての人への提案： 自分の疑問に一人で向かうのではなく、週一回または月一回、それを分かち合わせる人々を探してみてもはどうでしょうか。福音書や他の文章と一緒に読み、共に祈ります——歌、聖書の朗読、長い沈黙とともに。
- 地域の司牧リーダーたちへの提案： このような小さな分かち合いと祈りのグループを励まし支えることができます。それが開かれたもの、他者を歓迎するものであり続けるように助けるのです。

提言 4 キリストを愛するすべての人々の コミュニケーション 交わりをより目に見えるものにする

あなたがたはキリストの体です。
(1コリント 12:27)

わたしたちの村、街、地域には、わたしたちと同様にキリストを愛する人々が存在します。しかし、愛し方がわたしたちとは異なります。わたしたちが自らを「キリスト者」と呼ぶのは、キリストの名を帯びていることを意味します。わたしたちは、キリスト者としてのアイデンティティーを洗礼によって授かり、その洗礼によってキリストに一つに結ばれています。ですから、教派のアイデンティティーを強調するよりも、この共通のアイデンティティーがより目に見えるものになるように心しようではありませんか。

相違点によってどうしても折り合いがつかないと思えることがあっても、それは分裂の理由にはなりません。キリストは、その人生の間に、あらゆる境界を越え、そして十字架上で、分裂している人々の間で、ご自分の腕を端から端まで伸ばされたのです。もしキリスト者たちがキリストに付き従い、神のみ光を世界に輝かせることを願うならば、分裂したままではいられません。聖霊によって、わたしたちは一つに結ばれているのです。

- すべての人への提案： 自分と異なる人々のところに赴くのはどうでしょうか。別のグループ、別の教会（小教区）、別の運動、別の教派、移住者のキリスト者コミュニティ……。彼らを訪問し、彼らの歓迎を受け、彼らを何かに招待することもできます。単純素朴な祈りのなかで、共にキリストに顔を向けます。すべてのことが完全に調和することを待つのではなく、自らを「一つ屋根の下」に置くのです。そのようにして、わたしたちは完全な交わりの先取りを生きることができるのです。
- 地域の司牧リーダーたちへの提案： 司牧の働きに関して、一緒にできることはすべて他の教派のキリスト者と一緒に行い、他の教派のキリスト者たちを配慮しない行動をしないようにしてみてください。

2015年 テゼにて 新しい連帯に向かって

コミュニケーション
テゼ共同体 創立 75 周年

ブラザー・ロジェ 生誕 100 年 (1915年5月12日～2005年8月16日)

2015年5月

- + 青年たちは、それぞれが暮らす場所で、祈りの集いと連帯の働きに招かれます。ブラザー・ロジェを思い起こし、キリストに従うようにとの彼の呼びかけを実践に移します。
- + 5月10日(日)午後： テゼ共同体はテゼ村とその周辺の人々を招き、感謝の祈りをささげます。

2015年夏

- ◆ 毎週日曜日から翌日曜日にかけて、国際的な青年の集いが開催され、世界中から集まった青年たちのリードで3年間の歩みを総括するワークショップが開かれます。

- ◆ 7月5日～12日：「修道者の召命は、今日どのような意味を持つのか」をテーマに修道生活に従事している若者の集いを開催。カトリック、正教会、プロテスタントの修道会・コミュニティのメンバーによる発表。
- ◆ 8月9日～16日：新しい連帯のための青年の集い
- ◆ 8月16日(日) ブラザー・ロジェを記念する感謝の祈り——教会の指導者たちとともに——
- ◆ 8月30日～9月6日：若い神学者たちのシンポジウム。テーマは「神学的思索へのブラザー・ロジェの貢献」。プロテスタント・正教会・カトリックの神学者による発表。